

よしだともこの Linux 事始めの書

第12回 UNIXネタにワイ・ワイ・ワイ

— その3 X-Faceで遊ぼう

うちの庭の朝顔君は種モードに移行しました。
種になって来春までのんびり休憩だなんてうらやましい。

京都ノートルダム女子大学 よしだともこ
<http://www.notredame.ac.jp/~tyoshida>

My "Happyメモ魔Life"

9月上旬に信州(塩尻と諏訪)を取材と講演のために訪問したときに、「何でもかんでもメモする人っているよね。そういう人に限って、頭に入っていない。書くことで安心するんだらうね」とおっしゃる発言を聞いて、「そ、それはまさしく私のこと!」と叫んでしまいました。

メモしないと絶対に忘れるからメモするんだけど、そのうちどこにメモしたかを忘れてしまうから、結局は同じなんだけど。ただ、それをどこかに書いたという事実だけは鮮明に覚えてるんですよ。

で、信州に行ったときも、メモばかりしてました。名刺をもらわなかった人の名前、各種URL、訪れた場所……。そしてメモの中にはこの情報も。

長野県の花：リンドウ
県獣：カモシカ
県の鳥：雷鳥
県の歌：信濃の国

長野県人の多くは、これらがすらすら言えるそうです。県の歌「信濃の国」にいたっては、長野県出身者は、誰でもそらで歌えるらしい。なんでも、小学校で繰り返し練習するそうで。長野県は非常に面積が広いので、広い地域の人の気持ちを1つにまとめるために、この歌が重要な役割を担っているそうです。

でね、メモ魔のくせにどこに書いたか分からなくなる私にとっての、その情報をキープするいい方法が、雑誌記事に書くことなんです。後で雑誌を見返す以外には、記事を読ん

でくれているであろう人に、「私、記事に書いてましたよね」と言うと、教えてもらえたりもする(笑)。ということで、これからも、ずっとキープしたい情報は雑誌記事に書こうと思ってますので、お付き合いよろしく。

ハッカーという用語の例え

信州でみなさんと夕食を食べながら雑談しているときに、NCS(記事末RESOURCE 1 参照)所属の古旗一浩さんが、ハッカーという用語についてすばらしい例えをつづやかれましたので、紹介します。

私たちが口々に「ハッカーという、尊敬すべき人を指す用語が、クラッカーの意味で使われるのは不愉快だ……」と言っていたときでした。古旗さんが次のように言われたのです。

「これって、勲一等が、前科一犯に変わってしまうようなもんですよ」

つまり、「私はハッカーです」と言ったときに、まわりの人が正しく理解してくれるなら「勲一等」という名譽な称号なのに、間違っただけで解釈されるなら、その称号が「前科一犯」の意味になるというわけ。あまりに分かりやすい例えで、私は大いに感動しました。

ということで、みなさん、まわりの人に「ハッカーの誤用は、勲一等が、前科一犯に変わってしまうようなものだ」と言ってみて、相手が「えっ? どういうこと?」と言ってくればしめたもの。ハッカーという用語を正しく理解してもらえよう、啓蒙活動に励みましょう。

*1 信州(塩尻と諏訪)を取材と講演 取材記事は、UNIX USER誌の12月号(11月8日発売)に「塩尻情報プラザ」(<http://www.shinshu.ad.jp/>)訪問)掲載。9月9日は、塩尻市体育館で実施の「オープンソース地域コミュニティ大会 in 塩尻」で講演。おみやげに、地元の伊那食品のカップゼリーの寮「かんでんばば」(<http://www.kantenpp.co.jp/>)の詰め合わせセットをいただいた。Linux Japanの記事から、私がゼリー好きだったことをご存知だったそうで、光栄、光栄。感謝、感謝。

✂ From行に自分のX-Faceを!

京都ノートルダム女子大学のコンピューターセンターでは、後期も毎週火曜日は「UNIXday」([2])です。今回の記事で紹介するのも、UNIXdayで津呂公暁さんに教えていただいたネタで、「メールにX-Faceを付けて送ろう!」というものです。

X-Faceというのは、メールのヘッダのFrom行に、48×48の画像を表示させるもので、UNIX上のEmacs系のMUA(具体的には、mh-e、Mew、Wanderlust、Gnus、cmail、rmail、vmなど)で使われています。実際の例を示しましょう(画面1)。ちなみにこの画面ではヘッダ部分しか紹介しておらず、メールの本文は、その下に続いています。念のため。

なお、送るメールにX-Faceが付いていても、対応していない環境で読まれると、画像としては表示されずに、以下のような文字列がヘッダの部分に含まれることになります。

```
X-Face: "#ne&3dlLMk;DoFLKDEhXrm'*$Y!5\S
'c#c/T(1Hm:z18I'$h~V&5H,/)2z/%Wrh)hP
```

届いたメールの内容をcat(またはmoreやless)コマンドで表示させても、このような文字列として表示されます。

```
$ less ~/Mail/inbox/100
:
X-Face: "#ne&3dlLMk;DoFLKDEhXrm'*$Y!5\S
'c#c/T(1Hm:z18I'$h~V&5H,/)2z/%Wrh)hP
:
```

✂ bitmapコマンドで画像を作ろう!

X-Faceの画像は、XBM(X11 Bitmap)形式が使われますので、今から作り方を説明します。ですが、作った後に、「自分が使っている環境では、X-Faceが使える環境はまだなかった……」では悲し過ぎるので、そういう不安のある場合は、この記事の最後まで目を通してから、画像作りをスタートされることをお勧めします。

では、XBMの画像を作るために、X Window Systemが標準



画面1 X-Face付のメール表示例

として備えている、bitmapコマンドを起動してみましょう。

```
$ bitmap
```

起動してから、File Resizeと選び、サイズを入力するフィールドに、48x48(48と48の間は、小文字のエックスで、升目を増やします。絵が描けたら、File Resizeと選び、ファイル名(例えば、to.xbm)を入れて保存する。ファイル名の拡張子は、xbmとします。

実は、この方法で大作を作るのはかなり大変です。ですから、すでに存在するGIFなりJPGなりBMPなどの画像をXBM形式に変換して、その後、ちょっと手直しするといった方法が楽でしょう。

ここに、tomo.gifという画像が存在するとします(画面2)。ImageMagickという画像処理ツールに含まれているconvertコマンドで、tomo.gifをto.xbmに変換し、bitmapコマンドで表示させてみましょう。

```
$ convert tomo.gif to.xbm
$ bitmap to.xbm
```

表示された画面は、こんな感じになります(画面3)。

この場合、サイズは48×48にはなっていないはずですから、File Rescaleと選び、サイズを入力するフィールドに、48×48と入力します。

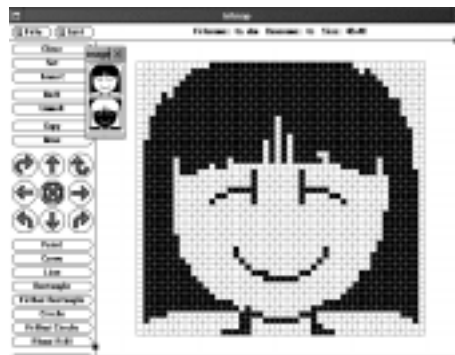
ガタガタしている点を手直して、完成。ファイルを保存します(画面4)。



画面2 tomo.gifという画像



画面3 to.xbmをbitmapで表示



画面4 to.xbmをbitmapで手直し

✂ x-facesというディレクトリに

できあがった画像は、ホームディレクトリの下にx-facesというディレクトリを作って、そこに置きます。なぜならデフォルトで、X-Faceの画像はこのディレクトリに置かれると記述されているからです。

```
$ cd
$ mkdir x-faces
$ cp to.xbm x-faces
```

✂ いよいよ送るメールに挿入！

では、Emacs(Mule)を起動して、メールを送る画面を開きましょう。宛先のメールアドレスを入力して、本文を書く前に、「M-x x-face-insert (ESCキーを押して離してからxを押して、その後、x-face-insertとタイプする)と入力してリターンキーを押し、

```
[Insert] xbm file: ~/x-faces/
```

と表示させます。これは、「どういうファイル名のものを挿入しますか?」と聞いているものなので、“to.xbm”と入力します。From行に画像が表示されれば成功です(画面5)。

残念ながら、「M-x x-face-insert」と入力したのに、“no match”と言われて先に進めなかった場合は、後ほど説明する「X-Faceを使えるようにする」に進んでください。

✂ 毎回はめんどろ

今回もやっぱり出ました。UNIXday恒例、学生からのツッコミ。

「そんなん、毎回、M-x x-face-insertなんて入力するの時間やん」

そのとおり。ということで、~/.emacsに、以下のように書いておきます。

```
(add-hook 'mh-letter-mode-hook 'x-face-insert)
```



画面5 From行に画像が挿入される

これで、メールを書こうとすると、自動的に「M-x x-face-insert」が実行されるようになります。なぜなら、この記述は、あるバッファに入ったときに、実行させたい内容を設定する方法で、この場合は「mhを使ってメールを書くモードに入ったときに、x-face-insertを起動させたい」という意味だからです。

ですから、Mewを使っている場合、Wanderlustを使っている場合、そのほかを使っている場合で、上記のmh-letter-mode-hookの部分を変更します(表1)。

✂ その後、さらなるツッコミが...

「そんなん、UNIX使ってへん人にメール書く方が圧倒的に多いんやし、付けるか付けへんかが選べる方が便利やと思わへん?」

なるほど。この機能を付けるためには、~/.emacsに、

```
(add-hook 'mh-letter-mode-hook 'x-face-insert)
```

と書く代わりに、以下の6行を書きます。

```
(add-hook 'mh-letter-mode-hook
  (function
    (lambda ()
      (and (y-or-n-p "X-Faceヘッダを付けますか?")
           (call-interactively 'x-face-insert)
          )))
```

この場合も、「mh-letter-mode-hook」の部分で、自分が使うMUAに合わせて変更してください。

✂ X-Faceを使えるようにする

さて、「M-x x-face-insert」と入力したときに、“no match”と言われてしまった場合でも、以下の手順にそって環境を整えることで、X-Faceが使えるようになる可能性があります。まず、x-face.elというファイルがある場所を探します。

表1 各種MUAの名称一覧(X-FaceのREADME.jaより抜粋)

メーラ	入力方法
mh-e	mh-letter-mode-hook
Mew	mew-draft-mode-hook
Wanderlust	wl-mail-setup-hook
Gnus(v5.2以上)	message-setup-hook
Gnus(v5.1以下)/GNUS	news-setup-hook
cmail	cmail-mail-hook
MAIL/RMAIL/VM	mail-setup-hook

```
$ locate x-face.el
/usr/lib/xemacs/site-packages/lisp/x-face/x-
face.el
/usr/lib/xemacs/site-packages/lisp/x-face/x-
face.elc
```

ちなみにこの結果は、Vine Linux 2.0 CRの場合です。

この結果から、`/usr/lib/xemacs/site-packages/lisp/x-face/`というディレクトリの下に`x-face.el`(それをバイトコンパイルしたものが`x-face.elc`)があることが分かりましたので、`~/.`emacsに以下の行を記述して、サーチパスの追加と`x-face`のロードを指示しておきます。

```
(setq load-path (append '("/usr/lib/xemacs/site-
packages/lisp/x-face/") load-path))
(load "x-face")
```

これで、「M-x x-face-insert」と入力したときに、“no match”と言われなくなり、X-Faceが挿入できるようになるはずです。

✂ X-Faceを2つ並べたい！！

X-Faceも使えるようになって、めでたし、めでたしと思っていたある日、私は津邑さんからのメールで、「X-Faceが2つ並んでいるものを発見してしまいました」。うう、こんなこともできたのか……。

「M-x x-face-insert」を単に2回実行しても、2つ並べることはできません。まいった、と思っているうちにすっかり忘れていたのですが、先日、教えていただきました。実は学生たちに「人に聞く前に、あらゆる手段で調べるように」と言っている手前、聞きにくかったですけど(苦笑)。

2つ以上並べる方法は、1つ目は普通に挿入し、2つ目からは「C-u M-x x-face-insert」つまり、Ctrlキーを押しながらuキーを押してから、M-x x-face-insertとします(画面6)。



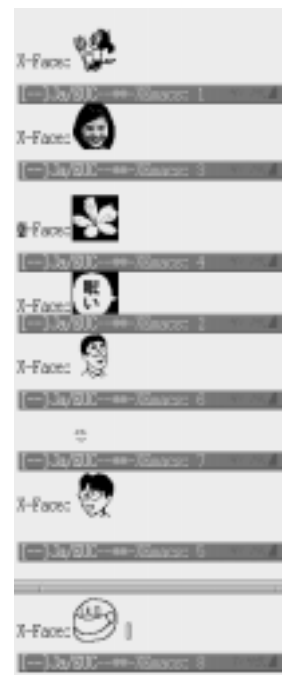
画面6 X-Faceを2つ並べるのに成功

左側の「眠い」の方の画像は、津邑さんが送ってこられたものです。そうなんです。人が送ってこられたX-Faceの画像を保存して、(相手の許可を得て)使うこともできるのです。保存する方法は、X-Faceの付いた画面で、「M-x x-face-save」と入力すれば、ファイルは`~/x-faces`の下に保存されます。

何人かから届いたX-Faceを保存して、並べてみました(画面7)。上から、西村昌明さんの作品、堀居ひとみさん作の「堀居さんの顔」、同じく堀居さん作の「コスモス」、津邑さんが使われていた「眠い」、斎藤直彦さんの「顔イラスト」、よしだ作の「自分の顔」、千葉靖伸さんの「顔イラスト(斎藤さんと千葉さんの作品の元データは、ルート訪問記で使われていた大山正弥さん作のイラスト)、そして一番下が、LILO-BKの友國哲男さんの作品「バイクのヘルメット」です。

LILO-BKというのは、liloという大阪のLinuxユーザーグループのバイクチームで、バイクで日本各地のLinuxユーザー会に行かれることで有名です。6月に名古屋大学で開催された「FreeUNIXの集い」や、9月の信州にも3人の方がバイクで来られていました。しかも、上諏訪温泉での宴会の翌日、私が寝坊してしまった日も、彼らは早起きして「諏訪湖 乗鞍 高山 福井 神戸 吹田」というルートで、大体600km、標高差2700mをバイクで移動されたそうです。その日の夜の神戸でのlilo宴会にも出られそう。すごいですね。

では、また。



画面7 知り合いのX-Faceたち

R E S O U R C E

- [1] NCS(Network Community Shiojiri)
<http://www.ncs.gr.jp/>
- [2] 「UNIXday」
<http://www.notredame.ac.jp/~tyoshida/unix/>